

秋田県への企業版ふるさと納税の取り組みで アルビオンが大臣表彰を受賞

>>>2019. 01.25

株式会社アルビオン(東京・中央区、小林 章一代表取締役社長)は、秋田県内における事業活動に伴う地方創生への貢献が評価され、日本経済新聞社が主催する日経地方創生フォーラム「官民連携と地域連携で実現する地方創生」の中で、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)に係る大臣表彰を受賞いたしました。

大臣表彰は地方公共団体部門で2団体、企業部門で3社受賞し、アルビオンは企業部門で受賞しました。2019年1月22日に日経ホールにて表彰式がとり行なわれ、当社小林章一代表取締役社長が中根一幸内閣府副大臣より表彰状を拝受しました。

また当社の秋田県内での取り組みについて事例を挙げてプレゼンテーションを行い、「一企業が直接的に白神山地の保全に取り組むことはできないが、我々がお世話になっている地域のためにもその保護のために何かできないかと考えていた。秋田県からご紹介いただいた『企業版ふるさと納税』を活用させていただくことで、その想いを叶えることができた。白神山地の麓で活動する地域の一員として、保全に協力できることは企業としても大変嬉しいこと」と想いを述べました。



アルビオンは2010年に、白神山地の麓にある秋田県藤里町に白神研究所を設立し、化粧品原料となる植物の栽培や研究を行なっております。設立以来、秋田県や藤里町の協力のもと、農地拡大や研究の拡充を行ないながら順調に運営を行なっていることから、企業としてその利益の一部を現地へ還元することが社会的責任であると考えていました。そのため、2016年度から、秋田県が展開する『世界遺産白神山地の保全を通じて「高質な田舎」を実現するプロジェクト』に寄附することでその社会的責任を実現することを推進しています。

今後も白神山地をはじめとした自然の恩恵を大切にしながら、地域の活性化にも貢献できるよう、秋田県での研究活動に励んでまいります。



閉園した保育園を借り受けた米田研究棟

■資料

寄附概要

<秋田県>

世界遺産白神山地の保全を通じて「高質な田舎」を実現するプロジェクト

世界遺産白神山地の自然に触れ合う場を提供することで、交流人口の増加と地域の活性化を図るため、白神山地をフィールドにした自然体験ツアーやエコツーリズムイベントを開催するとともに、白神ガイドの育成や、登山道の改修等を行なう。

- ・小学生を対象とした自然体験ツアーの開催
- ・エコツーリズムイベント「秋田白神祭」の開催
- ・登山道の改修等
- ・白神ガイドの育成

地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)とは

2016年に創設され、志のある企業が寄附を通じて地方公共団体の行なう地方創生の取り組みを応援した場合に、税制上の優遇措置が行なわれる仕組み。